

## ナショナルバイオリソースプロジェクト 第3回運営委員会委員長会議議事概要

### 1. 日時・会場

平成21年12月14日（月） 13:30～16:00

東京コンファレンスセンター・品川4Fコンファレンスルーム406

### 2. 出席者

#### 推進委員会委員

（主査）	小原 雄治	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所長
（副主査）	小幡 裕一	理化学研究所バイオリソースセンター長
	岡田 清孝	基礎生物学研究所長
	篠崎 一雄	理化学研究所植物科学研究センター長
	城石 俊彦	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 系統生物研究センター教授
	福田 裕穂	東京大学大学院理学系研究科教授
	森脇 和郎	理化学研究所バイオリソースセンター特別顧問

#### 中核的拠点整備プログラム・情報センター整備プログラム

（実験動物マウス）	○米川 博通	東京都臨床医学総合研究所疾患モデル開発センター
	吉木 淳	理化学研究所バイオリソースセンター
（ラット）	○森 政之	信州大学大学院医学研究科
	庫本 高志	京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設 (芹川代表代理)
（ショウジョウバエ）	○多羽田 哲也	東京大学分子細胞生物学研究所
	山本 雅敏	京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター
（線虫）	○飯野 雄一	東京大学大学院理学系研究科
	三谷 昌平	東京女子医科大学医学部
（ネッタイツメガエル）	○毛利 秀雄	東京大学名誉教授
	矢尾板 芳郎	広島大学大学院理学研究科附属両生類研究施設
（カイコ）	○前川 秀彰	琉球大学熱帯生物圏研究センター分子生命科学研究施設
	伴野 豊	九州大学大学院農学研究院
（メダカ）	○山下 正兼	北海道大学大学院先端生命科学研究院
	成瀬 清	自然科学研究機構基礎生物学研究所
（ゼブラフィッシュ）	○日比 正彦	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター
	東島 眞一	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター (岡本代表代理)
（ニホンザル）	○泰羅 雅登	日本大学大学院総合科学研究科（兼 伊佐代表代理）

(カタユウレイボヤ・ニッポンウミシダ)	○野中 勝 稲葉 一男	東京大学大学院理学系研究科 筑波大学下田臨海実験センター
(シロイヌナズナ)	○小林 正智	理化学研究所バイオリソースセンター
(イネ)	○谷坂 隆俊 倉田 のり	京都大学大学院農学研究科 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所系統生物研究センター
(コムギ)	○辻本 壽 那須田 周平	鳥取大学農学部 京都大学大学院農学研究科 (遠藤代表代理)
(オオムギ)	○掛田 克行 佐藤 和広	三重大学生物資源学研究科 岡山大学資源生物科学研究所
(藻類)	○池内 昌彦 笠井 文絵	東京大学大学院総合文化研究科 (白岩委員長代理) 国立環境研究所
(広義キク属)	○渡邊 邦秋 草場 信	神戸大学大学院理学研究科 広島大学大学院理学研究科附属植物遺伝子保管実験施設
(アサガオ)	○小野 道之 仁田坂 英二	筑波大学生命環境科学研究科遺伝子実験センター 九州大学大学院理学研究院
(ミヤコグサ・ダイズ)	○磯部 祥子 明石 良	かずさDNA研究所 宮崎大学フロンティア科学実験総合センター
(トマト)	○柴田 大輔 江面 浩	かずさDNA研究所 筑波大学生命環境科学研究科遺伝子実験センター
(細胞性粘菌)	○久保原 禪 漆原 秀子	群馬大学生体調節研究所 筑波大学大学院生命環境科学研究科
(病原微生物)	○北 潔	東京大学大学院医学系研究科
(一般微生物)	大熊 盛也	理化学研究所バイオリソースセンター
(原核生物)	仁木 宏典	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所系統生物研究センター
(酵母)	○大矢 禎一 中村 太郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科 大阪市立大学大学院理学研究科
(遺伝子材料)	○宮崎 純一	大阪大学大学院医学系研究科
(ヒトES細胞)	末盛 博文	京都大学再生医科学研究所
(ヒト・動物細胞)	○中畑 龍俊 中村 幸夫	京都大学大学院医学研究科 理化学研究所バイオリソースセンター
(情報センター)	山崎 由紀子	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 生物遺伝資源情報総合センター

オブザーバー (生物遺伝資源委員会委員)

帯刀 益夫	東北大学
金子 嘉信	大阪大学大学院工学研究科
酒泉 満	新潟大学理学部
鈴木健一朗	製品評価技術基盤機構/バイオテクノロジー本部生物遺伝資源部門
西尾 剛	東北大学大学院農学研究科

仁藤 伸昌	近畿大学生物理工学部	
深海 薫	理化学研究所バイオリソースセンター情報解析技術室	
松居 靖久	東北大学加齢医学研究所附属医用細胞資源センター	
松本 耕三	京都産業大学工学部生物工学科	
山村 研一	熊本大学発生医学研究センター	
吉村 崇	名古屋大学大学院生命農学研究科附属鳥類バイオサイエンス研究センター	
上田 龍	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所	
清水 裕	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所	
阿部 純	北海道大学農学部	(島本委員代理)
落合 知美	京都大学霊長類研究所	(松沢委員代理)

### オブザーバー

猿木 重文	理化学研究所筑波研究所研究推進部企画課
源内 哲之	製品評価技術基盤機構バイオテクノロジー本部
鈴木 睦昭	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所知的財産室長

### 文部科学省

石井 康彦	研究振興局ライフサイエンス課長
本間 善之	研究振興局ライフサイエンス課ゲノム研究企画調整官
河野 広幸	研究振興局ライフサイエンス課生命科学専門官
成田 恵理子	研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究科係長
平賀 勸	研究振興局ライフサイエンス課行政調査員
熊澤 周平	研究振興局ライフサイエンス課植物研究係

### 事務局

ナショナルバイオリソースプロジェクト事務局  
 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所管理部研究推進課

## 3. 議事

### 1. 開会

### 2. 実費徴収体制整備の進捗状況について

- (1) 全体の概要説明 (NBRP 事務局より)
- (2) 各リソースの現状報告 (カイコ、メダカ、ミヤコグサ・ダイズ、原核生物より)
- (3) アンケートに出された各課題について  
(NPO 法人、NIG データベース検索・発注システムの利用など)

### (4) 討論

### 3. 行政刷新会議の事業仕分けに対する意見交換

- (1) バイオリソースに関する動向 (文部科学省ライフサイエンス課 石井課長)

- (2) 討論
- 4. その他
- 5. 閉会

#### 4. 配付資料

- 資料 1 : ナショナルバイオリソースプロジェクト第 3 回運営委員会委員長会議出席者名簿
- 資料 2-1 : 「実費徴収に対する取り組みの進捗状況について」アンケート回答一覧
- 資料 2-2 : 各リソース報告資料 (カイコ、メダカ、ミヤコグサ・ダイズ、原核生物)
- 資料 2-3 : NPO 法人を利用したリソースの提供とクレジットカードによる実費徴収の流れ、  
国立遺伝学研究所情報総合センターで構築された検索・発注システムの利用
- 資料 3-1 : 行政刷新会議基本姿勢
- 資料 3-2 : 行政刷新会議ワーキンググループ事業仕分けの評価結果 (P50 抜粋)
- 資料 3-3 : 行政刷新会議「事業仕分け」第 3WG 評価コメント事業番号 3-18

参考資料 1 : ナショナルバイオリソースプロジェクト第 2 回運営委員会委員長会議議事概要

以上

## 議事要旨

### 1. 開会

- ・開会の挨拶が佐藤事務局長よりあり、引き続き資料の確認が行われた。
- ・文部科学省ライフサイエンス課の本間調整官より挨拶があった。

### 2. 実費徴収体制整備の進捗状況について

#### (1) 全体の概要説明（NBRP 事務局より）

- ・アンケート結果（資料 2-1）について佐藤事務局長より説明があった。内容は以下のとおりである。
- ・理研の 5 リソースを除く 22 機関にアンケートを行い、19 リソースから回答が得られた。現状、完全実費徴収を行っているところは 3 リソース、輸送費だけ徴収しているところが 4 リソースであった。
- ・来年度については、「完全実費徴収」が約 50%、「輸送費のみ」が 30%、「無回答」が 20%で、この 20%はどちらかに移行すると思われる。

#### (2) 各リソースの現状報告（メダカ、ミヤコグサ・ダイズ、原核生物、カイコより）

##### <メダカ>（成瀬委員）

- ・提供にかかわる経費は、送料と輸送容器代、輸送にかかる人件費の三つである。
  - ・メダカの場合、輸送に関しては国内は宅配便業者を使い、すべて着払いで輸送費を負担してもらっている。問題は国外で、着払いをする方法がないので、年間 30 件ほどは基礎生物学研究所の運営費交付金で負担している。
  - ・輸送容器は再利用なので無料で、課金はしていない。
  - ・輸送にかかる人件費も、輸送のみにかかわる人はおらず、収集・保存を行う研究員、技術補佐員が兼務している。現状は課金していないが、将来的にどう課金するかになる。
  - ・課金のシステムは今のところクレジットカードを考えており、事務サイドとは話を始めた。NPO 法人を利用した課金制度の話もあるが、我々としては課金に関しては NPO の方に積極的に参加したいと思っているし、事務にも確認は取っている。
  - ・積算根拠を何らかの形で出さなければならないが、輸送に関してはどういうクーリエサービスを利用するかによって大きく変わる。
  - ・輸送容器については、あまり問題にならないかと思われる。
  - ・メダカに関しては専任を雇うほどではない。何らかの形で effort の管理をしなければならないが、これがそう簡単でない。今まで魚を扱ったことのない方が使われるようになって、最初のコンサルティングが大事なのだが、そこの effort が増えて、それも載せるとなるとかなり難しいと思っている。
  - ・ほかのリソースの積算も参考にして、2 月ぐらいにメダカの運営委員会に上げ、コミュニティでもある程度の納得を得た上で始めることになるだろう。
  - コンサルティングは中核機関の役目そのもので、これは提供には入らないと思われるが、それでよいのか。（小原主査）
- 私自身はそう考えているが、提供前のやりとりなどが effort としては増えてきてい

る。(成瀬委員)

#### <ミヤコグサ・ダイズ> (明石委員)

- ・9月11日の実費徴収説明会后、大学の事務と担当者の私とで、取り組み事項、スケジュール等について会議を持った。10月上旬に決済代行業者数社から見積もりを得て説明会を持ち、宮崎大学は手数料とシステムの利便性から J-Payment に決定した。
- ・J-Payment に決定した理由は、カード決済と銀行決済が付いて手数料が変わらない点である。
- ・今後の予定としては、1月に最終的な徴収金額を決定し、山崎先生にお願いして課金システムを構築して2月中にシミュレーションを行い、4月1日からの開始を考えている。
- ・積算については資料2-2(ミヤコグサ・ダイズ)に示しているとおりである。
- ・事務方に理解してもらうことが一番大変な作業であったが、説明会にも事務が参加して大変理解が得られ、大学の方針も加味してこのような結果になった。
- 国外についてはどうされるのか。(佐藤委員)  
→送料が国によって違うので、国外の場合は基本料にそれを別途プラスする形になっている。国外については送料が変わるということである。(明石委員)
- 具体的にはすぐには導入できないということか。(小原主査)  
→いや、できる。(明石委員)
- DNAはリクエストがあったときに取って送るのか。(漆原委員)  
→リクエストが来たら精製する。予め用意しておくことはない。また、送るのはDNAだけである。(明石委員)
- 量的には種子とクローンでどちらが多いのか。売上はどの程度か。(小原主査)  
→種子の方が多。月に50件のリクエストがある。宮崎は人件費が非常に安く、パート2人を雇うのにちょうどいい収入が入ってくる。200万ぐらいである。(明石委員)

#### <原核生物(大腸菌・枯草菌)> (仁木委員)

- ・原核生物の方ではリソースの実費徴収についてユーザー側の了解が得られており、来年4月1日から実施予定となっている。送料の利用者の負担は従来どおりとし、それ以外の課金システムについて構築することになる。
- ・遺伝学研究所ではショウジョウバエのサブ機関として機能しており、既に運用されているカード決済システムをそのまま利用して課金システムを構築する。さらにイネとゼブラフィッシュも同システムを利用して運用するというところで話がまとまっている。
- ・課金システムの対象範囲は、年間の維持費(サーバ運用経費リソースの分譲経費、発送経費、発送の際にかかる経費の4種類となる。
- ・問題になったのはやはり人件費の算出で、我々のところにも提供専用の職員はいないので、大学卒技術職員初任給のこの金額を基礎額として1秒ごとの単価を出し、その累計で諸費用を試算し、それをたたき台にして運営委員会で調整している。
- ・実際の試算は資料2-2(原核生物)のとおりである。

- 原核生物リソースだと年間でどれくらいになるのか。(小原主査)
  - 20年度は400万円を切る程度であった。(仁木委員)
- 大腸菌の場合、マーカーチェックなどをしだすときりがないが、どの程度までチェックするのか。(小原主査)
  - 枯草菌は全部自分のところでチェックしたものを持っている。バイオリソースで収集してきたものについては寄託者がチェックしており、その後の情報ももらってきている。非常に古いものについてはチェックできていないので、こちらでもう一度チェックをし直して、問題があった場合は交換や訂正を行っている。(仁木委員)
- 例えばグリセロールストックであれば、あるものをそのまま送って、新たに増やしたりはしないのか。(小原主査)
  - 送る段階ではグリセロールストックにしているのでさっと送れるし、それが一番手早くできる。(仁木委員)
- 秒単位でカウントするような細かいことをすると自分の首を絞めるという意見も聞こえてきたが、やはり根拠は説明しなければいけない。(小原主査)
  - 作業は環境によって違うが、一つの目安としてということである。所要時間を変えることで、ある程度の幅で運用できるのではないかと考えている。(仁木委員)

#### <カイコ> (伴野委員)

- ・ショウジョウバエを参考に作ったものが資料2-2(カイコ)である。
- ・カイコでは、卵、幼虫、さなぎ、成虫の4ステージで算定した。人件費は、書類作成、発送業務にかかわる人、具体的な作業をする人、経理担当と分けている。経理担当は今計算中である。
- ・変動経費として計算するときが一番困ったのが人件費で、ここは単価表で詳しく埋めるようにした。その結果、カイコの場合は年間18万3000円程度が返ってくる。これにはカードの決済、それに関しての費用、事務方の費用は計上していない。
- 数百万円単位の収入があればそれで人も雇えるが、これでは雇えない。どうされるのか。(漆原委員)
  - 全く同感で、その指摘に私は答えられないが、それが現状だ。とにかく計算してみたということだ。(伴野委員)
- カイコの場合、提供のパターンはさなぎであろうと卵であろうと同じように計算されているのか。特に人件費のところは。(成瀬委員)
  - ウェブ上で決済するとき、とにかくシンプルにした方がいいだろうということで、実際にはでこぼこがあるが、平均でこのくらいかなとした。(伴野委員)
- カイコは書類作成が30分で、先ほどの原核生物では40秒となっていた。もちろんものによって違うので構わないのだが、やはり提供数が少ないからメリットが出てこないのだろうか。(小原主査)
  - カイコの場合、こういう研究をしたいがどういうリソースを使ったらいいのかというやりとりがあるので、それも含めて30分とした。(伴野委員)
- それはパートタイムの職員でもできる作業なのか。(小原主査)
  - いや、結局私が受けることになる。(伴野委員)

### (3) アンケートに出された各課題について

#### ＜NPO 法人を利用したクレジットカード決済について＞（山本委員）

- ・資料 2-3 に基づいて、NPO 法人を利用したクレジットカード決済の紹介が山本委員からあった。内容は以下のとおりである。
- ・NPO は 12 月 8 日に認証を取得し、現在は総務省に登録手続中で、相談受付等、実質的な稼働は 1 月から可能になる。
- ・NPO を利用するメリットの一つは人件費である。提供のためだけに人を雇用することは非常に難しいが、ほかの業務で雇っている人がいれば、提供にかかる必要時間数だけの経費を積算して人件費も入れたものを実費としておけば、NPO 法人から研究機関にお金が戻ってきたときに実際に仕事をしてくれた人に支払うことができる。細かな積算にも対応することができるというのが一つのメリットだろう。
- ・メリットの二つ目は、サブ機関と代表機関の間の金銭授受は難しいので、個別の研究機関にお金が実際に返済されて精算されるようなシステムが望ましい。その際に法人をアウトソーシングの一つとして使うという方法があるのではないか。
- ・三つ目は、登録料も全体的に安くなるので、ユーザーの少ないリソース機関のユーザーにとってメリットがある。
- ・NPO を考えたきっかけは、実費徴収が NBRP の業務であるなら、それは大学が責任を持って事務経費を見なければならぬ事業とは別のこととして考えていく必要があるのではないか。大学の事務にできるだけ負担のかからないやり方を考えてほしいという話が学長から出たことである。
- ・事務の経費がどれだけかかるかを考えて、ショウジョウバエの運営委員会で事務とも話をして出てきたものが一般管理費（23.1%）になる。一般管理費を経費に上積みすることになれば、23.1%相当を NPO の運営経費として大学が支払うと考えても、大学の事務をその分救済することになる。そういった考え方で、実費の積算に一般管理費という名称で積み上げている。
- ・カイコでは一般管理費は 10%となっているが、15%ぐらいがいいのではないかという声もあったようだし、ミヤコグサやメダカ、大腸菌では一般管理費は積み上げていなかったが、長期的な視野に立って大学の負担も考えなければいけない。

#### ●NPO の具体的なイメージを教えてください。（成瀬委員）

→NPO でやるのも一つの方法かなということで相談をしているところで、大学から提案があった 23.1%という一般管理費で動くかどうか辺りから考えたい。それから、参加してくださる方があって初めて動き始めることができるもので、既に動いているものを利用するという状況ではないことはご理解いただきたい。（山本委員）

#### ●NPO 法人はいいと思うが、大学が随契で契約するということになると大変難しいことになりかねない。その辺も工夫する必要がある。（小幡副主査）

●同じようなリソースを他機関が配っているかを調べてほしい。財務省はデータを持っていて、よほどちゃんと理屈をつけないと高止まりになる。整合性が取れるような説明をお願いしたい。（小幡副主査）

→委託事業のときには 10～15%あった一般管理費は、補助金になって一般管理費も間

接経費も項目すらなくなったが、収集・保存・提供の体制整備というところで提供の体制を作るところまでは使ってよい。そういう意味での 10%を機関が使うことは、確か構わないはずだ。事業の一般管理費は直接経費から使ってもいいということになっていると思う。(小原主査)

- 人件費もかなり微妙で、ある一人の人が 1 日働いていて、その中で事業そのものと提供のこともしているとなると、提供分に関しては単価幾らで返ってくるかもしれないけれども、それはその人には払えない。その辺はどう整理したらいいのか。(小原主査)

→NBRP で雇用する方が毎日 6 時間、毎週 5 日来られるとして、梱包や送るものの取り出し、その準備をしてもらいたいということになれば、その人には別の時間に別の雇用の形で仕事をしてもらえばいい。例えば、科研費で月火、別のお金で水木ということでは可能である。(山本委員)

→基本的に NBRP の補助金で支援された部分の人件費は、そこにオンして何かするのではなく、そこは外れた形でやっていただくのが原則である。提供に当たって、NBRP の補助金で雇用されている方が行っている場合は、その部分の補充ということではなくて、例えば、提供部分については、運営費交付金、他の資金で雇用されている方にしていただき、その部分を実費徴収するという形になる。(河野専門官)

- DNA を分譲するために DNA を抽出するとか、新たな培養を確認するといった、分譲、提供のプロセスの部分の人件費や、DNA 抽出のための消耗品も加算してよいのか。  
→それはもちろん構わない。(小原主査)

→提供すれば、その埋め合わせの作業も必要ははずで、それも加算すべきである。(小幡副主査)

→DNA の場合、リソースごとに値段が違っていると説明が難しくなる。(小原主査)

→リソースによって取るまでのプロセスが違うので、値段の違いはある程度はしかたがないのではないか。(笠井委員)

- 提供にかかる人件費と言ったのは、京都工業繊維大学では、事前に目算で運営費交付金を別途配分して、それで年内あるいは半期だけは運営する、運営費交付金でその時間だけは支払いをするという形でやっている。(山本委員)

#### <検索・発注システムの利用> (山崎委員)

・山崎委員より、資料 2-3 に基づいて、現状の流れにクレジット決済が加わったシステムの流れの紹介があった。

・新たに必要なのは SHOP CGI の入力画面のみで、システム追加はさほど大変ではない。

- SHOP CGI というのは既にあるのか。(小原主査)

→遺伝研の分はある。暗号化のためにお金を払わなくてはならないが、遺伝研はこれを持っている。現在、大阪市立大の酵母でこのクレジットの仕組みを作っていて、データベース自体は遺伝研にあるが、注文と同時に大阪市立大学の SHOP CGI に飛ぶようにすることもできる。(山崎委員)

- お金を払っているサーバとはどういうことか。この GMO ペイメントゲートウェイと契約をしているサーバということか。(佐藤委員)

- サーバ証明書更新ライセンスとは、安全なサイトであることを保証してくれるものだが、その保証を得るためにお金を払わなくてはならない。たまたま GMO のグローバルサインが例示されているが、同じところである必要はない。(山崎委員)
- そもそもの概念としては、大学ごとに現金徴収の様式が違うので、NPO を設けて、そこを介して各大学共通の決算様式にしようということなのか。(稲葉委員)
- 各リソースで実費徴収されているということが実態として成立していることが目的である。それをするために大学が徴収業務を担ってくれるかどうか、動いてくれるところばかりではない。NPO を作ればそのお手伝いができるのではないかというのが経緯で、クレジットカードでなく請求書を発行しても構わない。(山本委員)
- そうすると、かえってコストが高くつくからという話もあってのことだ。(小原主査)
- 大学がクレジット決済できるようにするにはお金がかかるので、NPO には期待しているのだが、随契になるので難しいと言われてショックを受けている。弱小でも維持する価値があると思われるリソースが動くような手立てはないのか。(漆原委員)
- 随契は難しいけれども、それを言いだすと今議論している意味がなくなってしまう。(久保原委員)
- 一般入札も駄目だろう。(小幡副主査)
- 各大学、研究機関の方に請負のような形で業務をしてもらうこと自体は、契約行為としてできる。ただ、手続きとして、昨今、随意契約は厳しく見られているので、そこで疑義が生じないような形になっていけば問題はないのではないかと。応札についても、できれば大学、研究機関の事務の方と詰めていただきたい。(河野専門官)
- 大学には既に収納機能があるので、そういったものを活用することが、法人ごとの事務という意味で大前提ではないかと思う。(河野専門官)
- 銀行振込でも構わないが、単価が非常に安いものが多いので、むしろクレジットの方がいいのではないかとというのがもともとの発想だ。だから、当然、銀行振込でもいけるのであれば構わない。(小原主査)
- 積算根拠で、コンサルティングを人件費に入れるというところはどうか。(磯部委員)
- それは今日の議論で初めて分かったところだが、基本的には入れない。(小原主査)
- このように積算すればいいというガイドライン的なものがあると、経営のプロでもない先生がいちいち頭を悩ませて考えるよりいいのではないかと。(磯部委員)
- 実費ワーキンググループでかなり議論して、それに基づいて話を進めているが、まだ考えがリソースによって違うところがあるので、少し差が出ている。(小原主査)
- 9月に説明したとおりなので、それに沿ってやってばらつきがあるということは、もう少し固める必要があるのだろうか。(小幡副主査)
- ようやく、ある程度各リソースの現状と積算の根拠等がまとまってきた。そういったものから全体の方向性、積算する内容等を詰めて、NBRP の事務局等を通じて情報発信していきたい。(河野専門官)
- 来年度に向けて、実費徴収を実際に動かさなくてはならないということで皆さん努力されているところで、輸送費の受益者負担はほとんどのものがいけるだろうが、人件費を込みにしたところについて、財務省の対応はそれで大丈夫か確認しておきたい。(城石委員)

→CSTP の優先順位付けの有識者委員、外部専門家のコメントは、NBRP と BRC は同じ内容で、適切な利用者負担を課すなど自己収入を増加させる検討を進めるべきであるとされている。一步踏み込んで、財務省としては「収入増加」を求めているものと思われる。刷新会議等でも指摘があったが、補助金、国の支援だけでやっていくことには限界がある。やはり利益を享受しているコミュニティにそれなりの負担をしてもらうことが必要であるというのが、今回の統一的な考えとなっている。そのため、各リソース足並みをそろえていただきたいというのが本音である。(河野専門官)

●かずさ DNA 研究所の場合は千葉県にサポートされていて、その中である種のボランティア的にトマトの DNA に関しては最初の 5 件までは無料にしている。(柴田委員)

→このプロジェクトから抜けて、県だけでやるなら可能だろうが、ナショナルプロジェクトの一環として提供も含めてサポートされているので、無料では説明がつかない。(福田委員)

→そこは理解していなかったので検討する。(柴田委員)

### 3. 行政刷新会議の事業仕分けに対する意見交換

#### (1) バイオリソースに関する動向 (文部科学省ライフサイエンス課 石井課長)

- ・「行政刷新の観点から今後に臨む基本姿勢 (案)」に基づいて、河野専門官、石井課長から説明があった。内容は以下のとおりである。
- ・刷新会議で理化学研究所のバイオリソースセンターについてかなり厳しい評決をいただき、現在、予算の調整が行われている段階である。刷新会議で対象になったのは理研バイオリソースセンターだが、重複の問題、または、共通的な事業について横串を通すという指摘もあり、ナショナルバイオリソースプロジェクトについても同様の指摘は受けている。
- ・ただ、バイオリソースプロジェクトは 21 年度から補助金化したこともあり、まだ体制が整っていない部分もあるということは文科省としても説明している。今後、最終的な調整の中で NBRP の予算がどうなるか分からないが、まずは、今行っている事業に支障を来さないようにする。ライフサイエンス研究に対する影響を最小限にして、しっかり研究できるようにすることが最優先だと考えている。
- ・その中で、枠組みを作って実費徴収する形にする。必要な部分を受益者に負担させる形にして、国民の方々に理解を得ることが重要だと思っている。
- ・あと数カ月間にこれを確立して、やるべきことはやった上で、あとはライフサイエンス研究がきちっとできるように最大限の努力をしたいと思っている。

●年末までには予想が見えるのか。(小原主査)

→今回のような予算組みの形は初めてなので、率直に言って分からない。はっきりしているのは 12 月 30 日に予算案の閣議決定が行われるとのことだが、スパコン問題がやはり大枠を占めていて、それに決着がつかないとほかのものも分からない。(石井課長)

●最終的に誰が政治決断をするのか。(山本委員)

→政治決断をするのは文部科学大臣と財務大臣になるが、すべてをそれでやるのは

現実的には難しくなってきたおり、政務三役（大臣、副大臣、政務官）に事務方が資料をまとめて説明をして、最終的には政務三役にご判断いただくことになるのではないか。（石井課長）

●同じ名前のプロジェクトが二つあると、将来的にこれを一つにしたらいいのではないかという意見が出てきた場合、どう対応されるのか。（清水委員）

→一本化すべきという議論が出てくる可能性は十分ある。NBRP の中では、中核機関と分担機関をどれだけの数を持っておく必要があるのかという議論をしなければならないだろう。これがやはり一番つらいところではないかと思っている。我々としては、一本化ありきではなく、今後どういう機能を必要なものとして維持しなければならないかを議論しようと思っている。（石井課長）

→バイオリソースというのは悩ましくて、基礎研究は分散型しかあり得ないというのが内部では常識だが、外からは動物一本、植物一本、微生物一本でいいのではないと言われてしまう。そんなことはあり得ないとはいえ、整理はしていかなければいけない。インセンティブ、一般管理費もなく、そんなものが持てるのかという話もあって、そこはこれから考えていかななくてはならない。（小原主査）

●遺伝研あるいは理研で事務的なレベルではまとまった組織ができて、実際の供給は各大学に遺伝研なり理研で雇った人を派遣して、そこの先生の指導の下で行うというような話が出てこないことには難しいだろう。現状、大学の先生には結構負担がかかっているし、教育機関である大学でそれをメインでやっていいのかどうかという話も当然出てくる。その辺も将来的に考えていかなければいけないのではないか。（前川委員）

→今やるとはとても言えないが、そういう方向も考えざるを得ない。（小原主査）

#### 4. その他

#### 5. 閉会